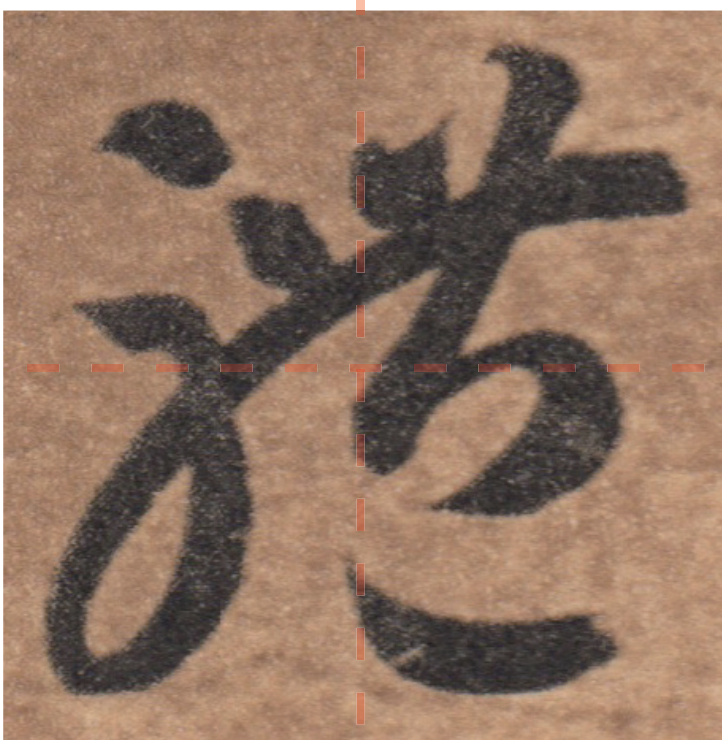


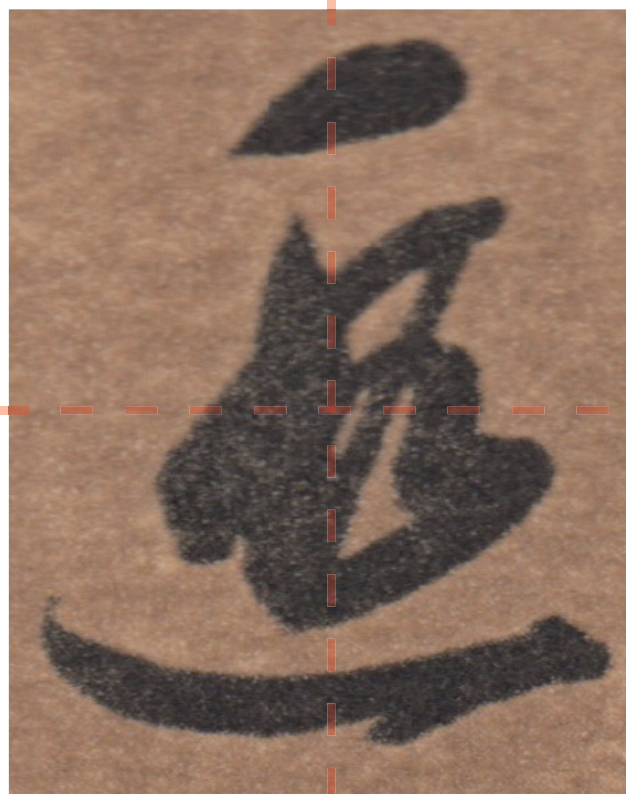
通(ふ)き道

か
じ
いっ
たい

※きと同字、一と同じ意味



※体と同字



麻

遠くも近くも諸国が一体となり

地の果ての人々までも王に従う

率

そつ

賓

ひん

王

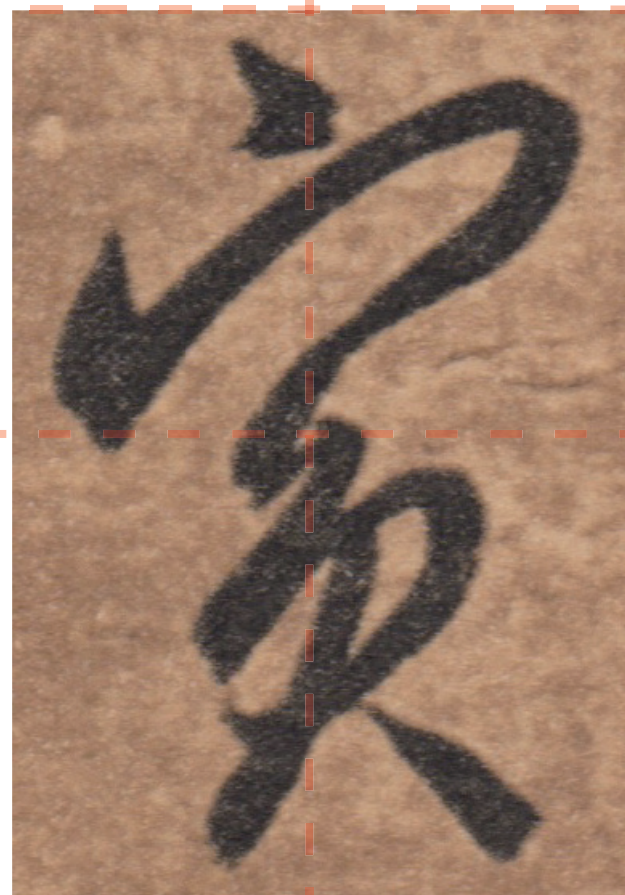
おう

に

随

き

す。



微

陽

真

（天下を治める名君がいる時は）鳳凰が樹上で鳴き、

鳴鳳

めいほう

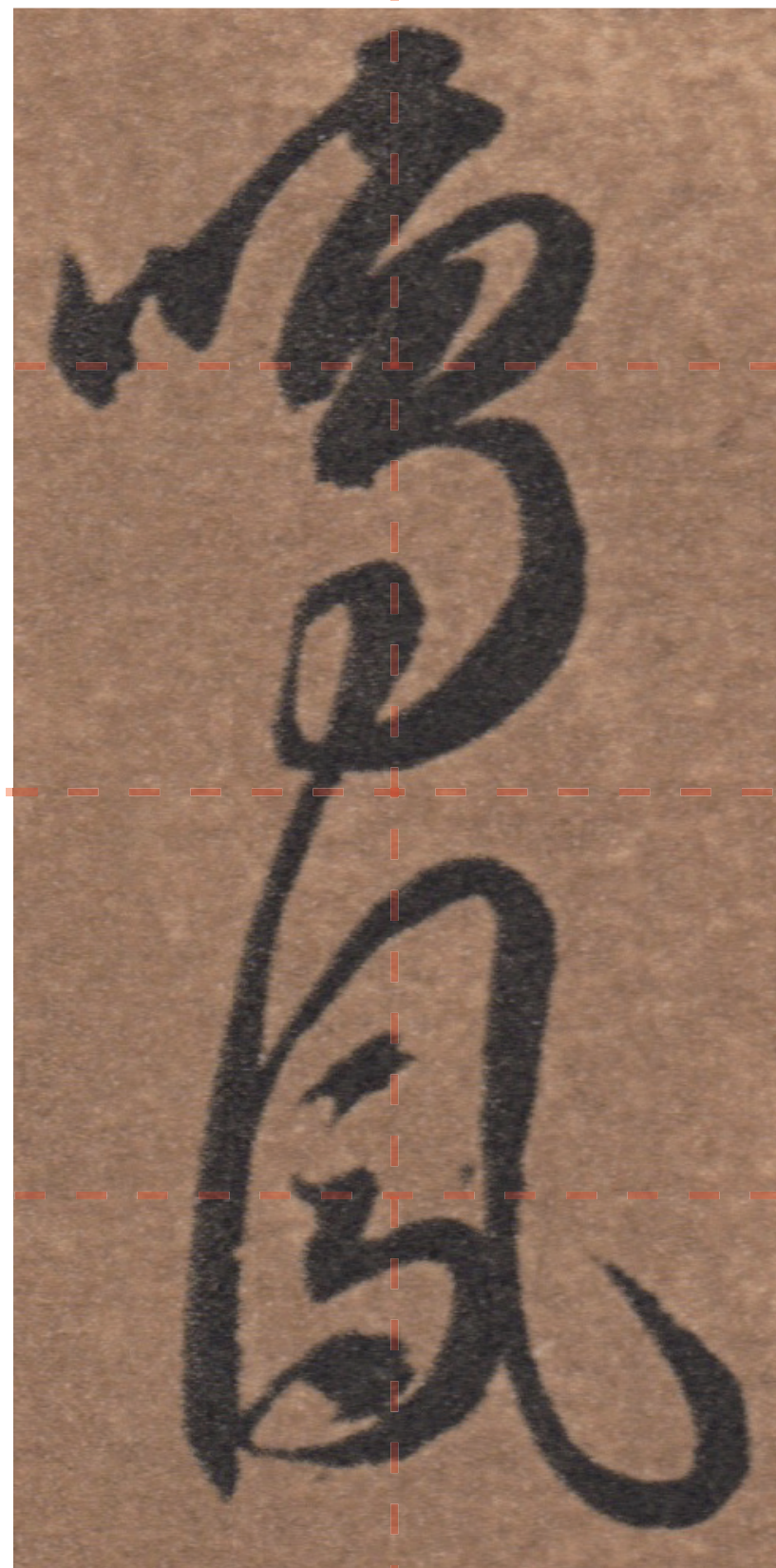
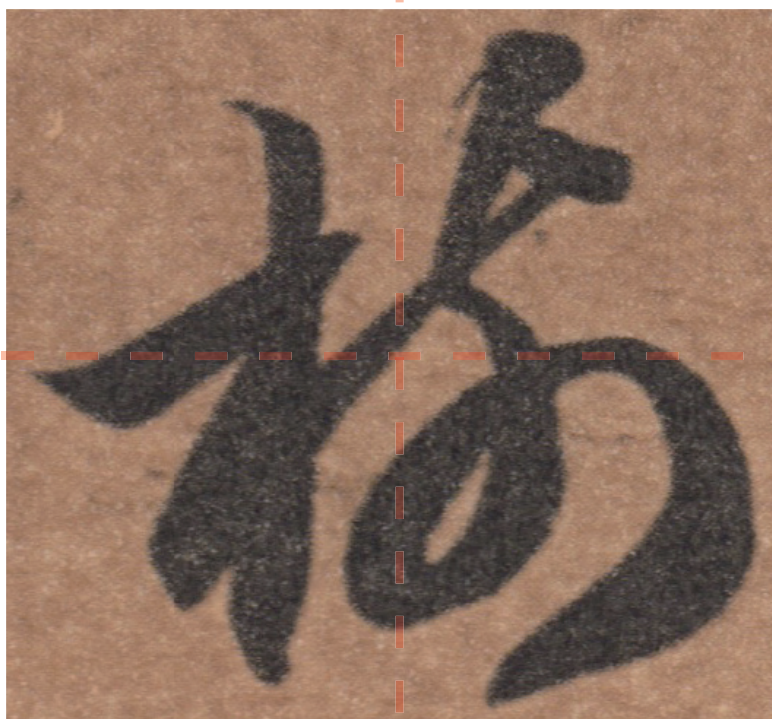
樹

じゆ

に

在り、

あ



庚

（王に意見を求めにきた）賢者の白馬は草を食む。

はく
く
じょう
は
に
む。



陽

虞

化

か

は

草

木

を

被

い、

そうもく

おお

名君の徳化は草や木にまで及び、

草

化

木

被

頼

らい

は

萬方

に

及

ぶ。

ばんぽう

およ

民の幸いは国々に満ちる。

さきわ

萬方

万

頼

及

陽

おおよそこの身体髪膚は、

蓋

けだ

し

こ

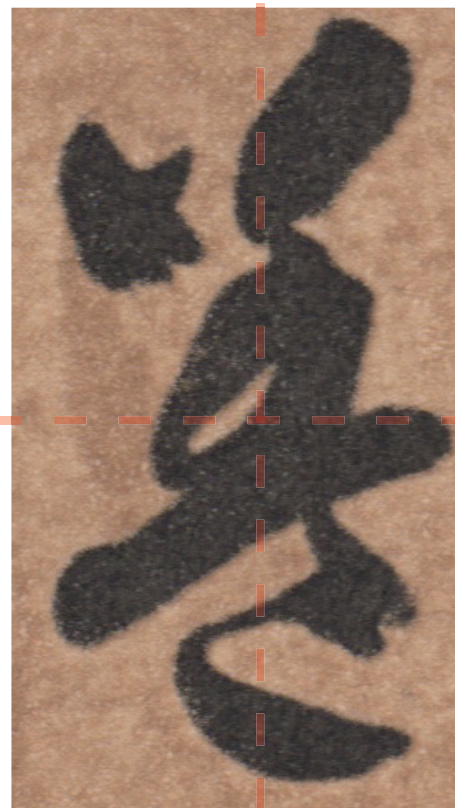
の

身

しんぱつ

髪

膚



真

仏教でいう四大（地水火風にたとえる）から成り、
五常（仁義礼智信）の道を修めて行くのである。

四

し

大

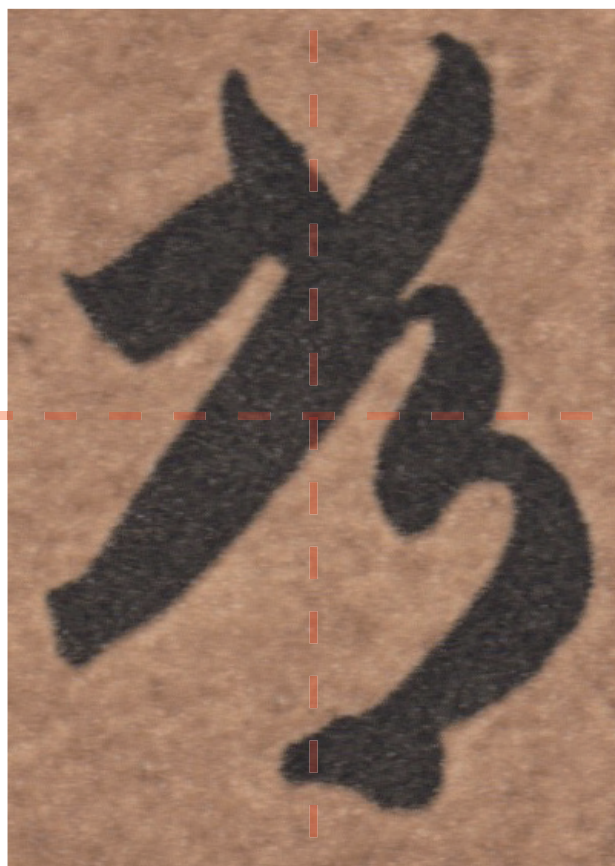
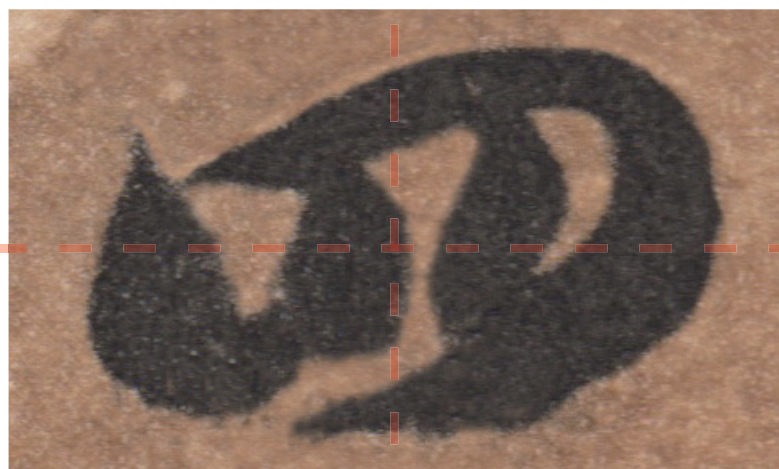
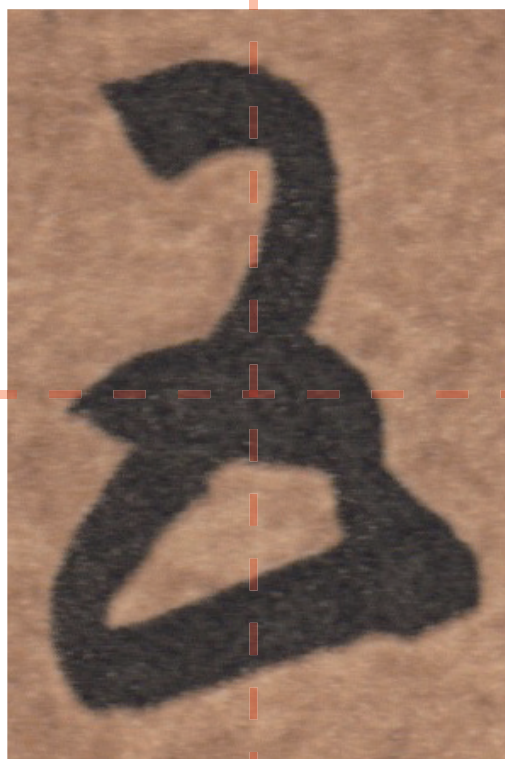
たい

五

ご

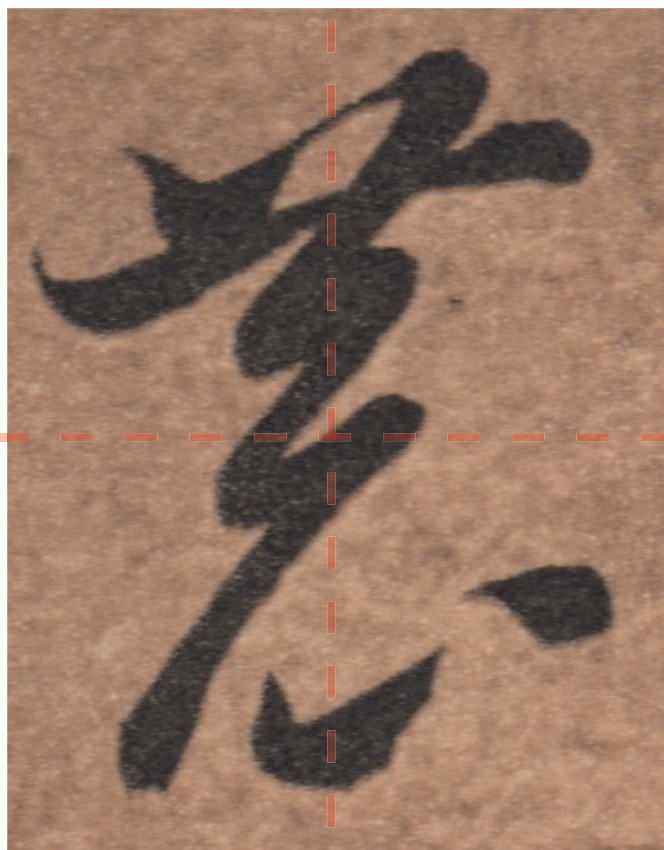
常

じょう

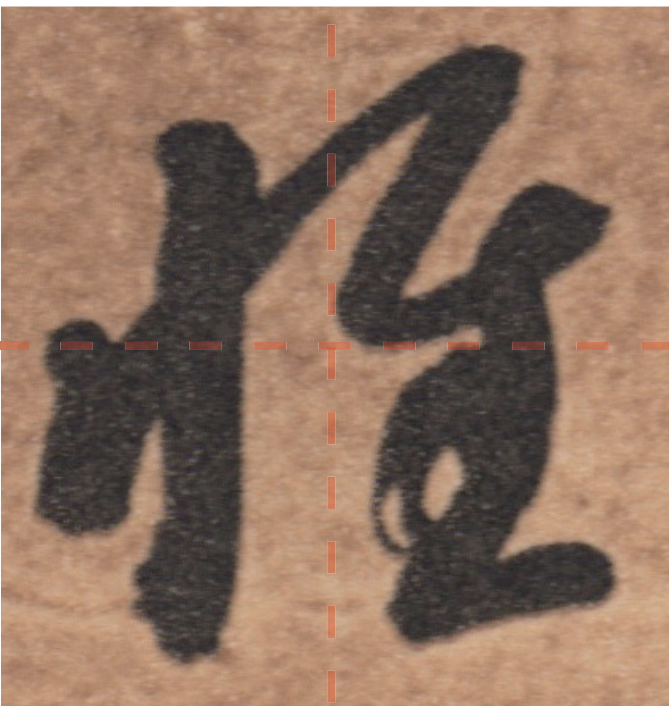


陽

冬



支



うやうや



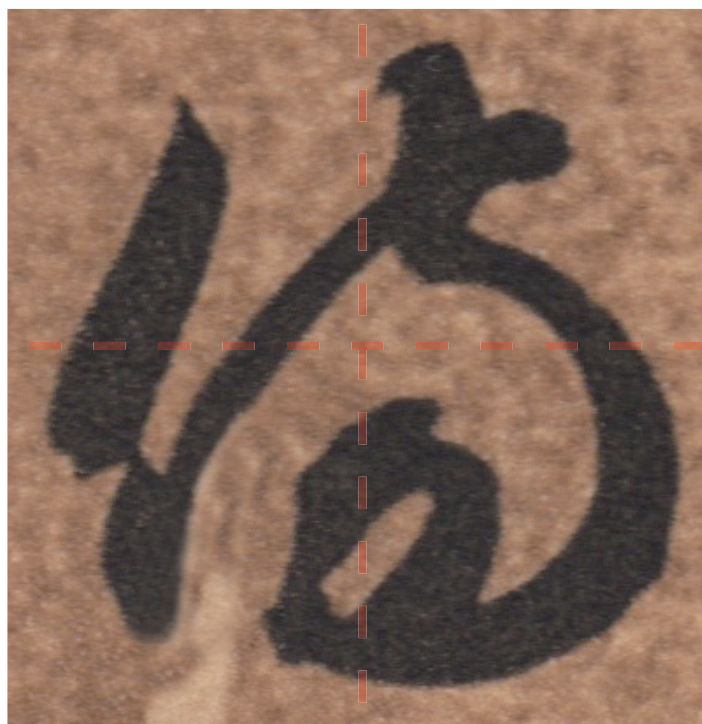
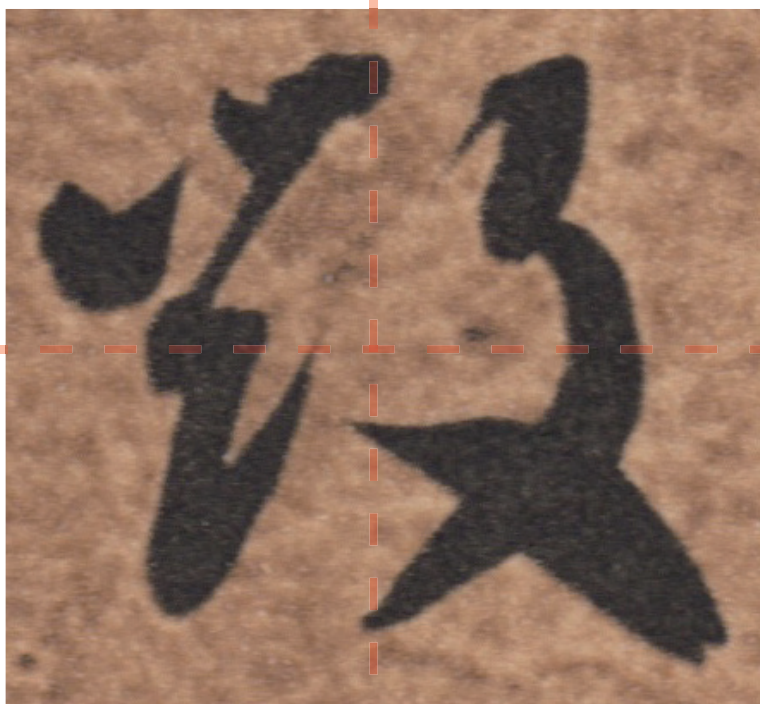
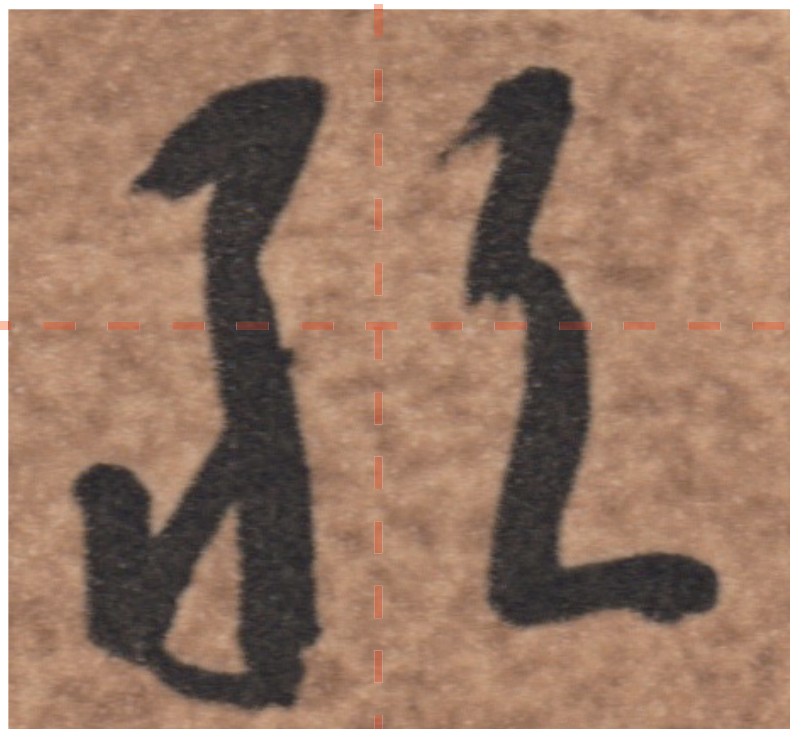
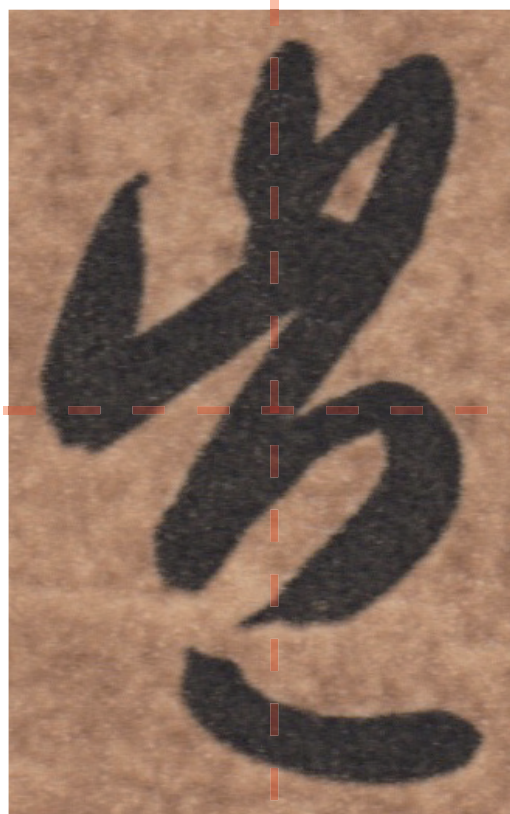
きくよう



おも



恭しく両親に養育されたことを忘れずに思う。



造

狂

て

毀

傷

せんや。

あに

あえ

きしょう

どうして我が身をそこない傷つけることがあるうか。

陽